

具体的な施策・重要業績評価
指標（K P I）進捗状況評価票
【令和元年度 2 施策】
（修正確認用）

No.	具体的な施策名
1	起業・創業の支援
2	歴史や文化、スポーツに触れる機会の充実

具体的な施策・重要業績評価指標(KPI)進捗状況評価票 (対象:令和元年度)

基本目標	1	市内産業の振興と起業・創業の推進による雇用の確保
基本的方向	2	起業・創業の推進による産業構造の多様化
具体的な施策	①	起業・創業の支援
主担当課	産業振興課、協働推進課	
施策概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 起業・創業に関する基礎知識や事例、各種補助金制度の情報などについて、相談体制を確保するとともに、セミナーなどにより、起業・創業希望者を支援します。 ・ 東京農工大学をはじめとする教育機関や市内団体等と連携し、コミュニティビジネスの立ち上げや、インキュベーションオフィスの活用も含め、商・工・農における起業や創業に関する多様な支援を行います。 	

1 重要業績評価指標 (KPI)

指標名	単位	現状	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
		目標					
		実績	実績	実績	実績	実績	実績
		進捗	進捗	進捗	進捗	進捗	進捗
① 起業・創業に関するセミナー参加人数	人	90					
		44	115	80	62	72	89
		/	A	B	B	B	A
② コミュニティビジネスに関するガイダンス・個別相談の参加人数	人	24					
		6	24	10	28	80	80
		/	A	B	A	A	A

※進捗 A：目標達成に向け、順調に進捗している。
 B：やや遅れているが、概ね順調に進捗している。
 C：遅れが生じている。このままでは目標の達成が難しい。

2 進捗状況評価（担当課）

【令和元年度の取組内容と評価】	
担当課 評価	<p>①創業に関する基礎知識や事例、各種補助金制度の情報などについて、創業支援事業計画に基づく創業支援プロジェクト機関を中心とした相談体制を確保することができた。また、創業に関するセミナー及び実践創業塾・体験型創業塾については11回、延べ89人の参加があり創業希望者の継続的な支援を行うことができた。なお、KPI①の参加人数については、年度ごとに増減があるものの、セミナーに参加された方のうち、実際に創業した人数は、H27が8名、H28が6名、H29が13名、H30が23名、R1が23名と概ね増加傾向にある。</p> <p>②引き続きコミュニティビジネス個別相談を実施するとともに、令和元年度は新たにコミュニティカフェ開設の内容に特化した連続講座を実施した。また、中小企業大学校や商工会議所、金融機関等と連携した創業支援イベントを実施した。結果として、市民活動センター プラッツ にて継続的に創業支援を行っていた方2名が起業し、コミュニティビジネス立ち上げ件数は累計4名となった。（総合計画の目標値は累計3名）</p>
A	
【5年間（平成27年度～令和元年度）の事業の総括】	
担当課 評価	<p>①平成26年度から開始された、創業支援等事業計画に基づき、創業支援プロジェクト機関を中心とした創業支援が確立できた。また、プロジェクト機関として、日本政策金融公庫が加わり、創業支援等事業の種類も拡大した。その結果、創業に関するセミナー及び実践創業塾・体験型創業塾に参加し、実際に創業した人数も徐々に増加してきた。今後もプロジェクト機関との連携を継続し、相談体制を確保していく。</p> <p>②市民活動センターにおいて、各種講座や相談事業を展開することにより、少しずつコミュニティビジネス実践者が増えてきている。また、金融機関による個別相談事業をはじめとして市民活動センター プラッツ と市内創業支援関係機関と連携して事業を実施することができた。</p>
A	
【令和2年度における取組など】	
<p>①創業に関する基礎知識や事例、各種補助・制度の情報などについて、創業支援プロジェクト機関を中心とした相談体制を確保していく。また、創業支援プロジェクト機関における創業に関するセミナー及び創業塾の開催を継続し、創業希望者の支援や創業希望者同士の交流の場をつくっていく。</p> <p>②創業者等の課題に対して、よりきめ細かく助言をするため、行政書士、金融機関、税理士、中小企業診断士、デザイナー等幅広い職種による個別相談アドバイザー制度を創設する（オンライン相談可能）。また、多摩地域の創業支援関係機関とも連携して社会課題解決の協働事業を生み出す連続ワークショップを開催し、有機的にコミュニティビジネス立ち上げ支援を実践する。</p>	

※評価 A：取組が順調に進展しており、進捗状況は良好である。

B：取組が進展しており、進捗状況は概ね良好である。

C：取組が遅れており、進捗状況は不十分である。

3 進捗状況評価（協議会）

【担当課評価などに対する意見】	
協議会 評 価	①起業・創業に関するセミナー参加人数は、H30の72名に比べてR1は89名と増加しており、創業希望者にとって関心の高いセミナー等が開催されていることは評価できる。しかし、セミナー参加人数に対する実際の創業者の割合は、R1の方が低くなっている（H30は約32%、R1は約26%）。創業者がより利用しやすい融資等の制度や、新しい時代に即した経営手法等を分かりやすく周知するなど、創業の不安を解消できるような支援を期待したい。
A	②創業支援を受けた方が、実際にコミュニティビジネスを立ち上げたことは評価できる。今後もコミュニティビジネス実践者の増加を目指すとともに、立ち上げたコミュニティビジネスが地域に根ざし、事業として継続していけるよう、多角的な助言を受けられる体制づくりに期待したい。

- ※評価 A：目標の達成に向けて、着実に進んでいる。
B：目標の達成に向けて、概ね進んでいる。
C：目標の達成に向けて、改善や工夫が必要である。

具体的な施策・重要業績評価指標(KPI)進捗状況評価票
(対象:令和元年度)

基本目標	2	定住促進に向けたにぎわいの創出とふるさと意識の醸成		
基本的方向	2	郷土への愛着を感じるふるさと意識の醸成		
具体的な施策	①	歴史や文化、スポーツに触れる機会の充実		
主担当課	文化生涯学習課、スポーツ振興課	関連課	ふるさと文化財課、美術館	
施策概要	<ul style="list-style-type: none"> ・府中市の伝統芸能や芸術文化を継承していくとともに、文化施設や歴史・文化遺産を活用して、郷土愛を持てるまちを目指します。 ・スポーツタウン府中の発展に向け、各種競技団体、市内の大学や市内を活動拠点とするトップチームなどとの連携を深め、府中市ならではの事業を展開します。 			

1 重要業績評価指標 (KPI)

指標名	単位	現状	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
		目標					
		実績	実績	実績	実績	実績	実績
		進捗	進捗	進捗	進捗	進捗	進捗
① 郷土の森博物館及び美術館の入場者数	人	533,000					
		489,602	498,579	569,685	530,738	419,188	579,175
			A	A	A	B	A
② 大学やトップチームと連携する事業数	事業	3					
		2	2	3	4	5	5
			A	A	A	A	A

※進捗 A：目標達成に向け、順調に進捗している。
 B：やや遅れているが、概ね順調に進捗している。
 C：遅れが生じている。このままでは目標の達成が難しい。

2 進捗状況評価（担当課）

【令和元年度の取組内容と評価】	
<p>担当課 評 価</p>	<p>①郷土の森博物館では、平成30年度にリニューアルオープンしたプラネタリウムを活用するとともに、展示会、出版、講座、体験学習、あじさいまつり・梅まつり、市民団体との共催事業、調査研究事業等を多彩に展開し、市民の知的レクリエーションの場としてふさわしい魅力ある博物館づくりに努めた。</p> <p>令和元年度は、東日本台風（台風19号）の襲来やコロナウイルス感染拡大防止対策のため施設利用の一部休止や臨時休館をしたが、利用者数（276,650人）は前年度（274,662人）を超え、1日当たりの平均入場者数（903人→988人）も前年度から大幅に伸びた点は、取組みの成果として評価できる。</p>
<p>A</p>	<p>市史編さん事業では、7分野からなる専門部会による資料収集・調査・研究を進めるとともに、その成果に基づいて、ビジュアル・多言語版の『武蔵府中まちの歴史物語』、『中世資料編』、『近世資料編上』、『民俗報告書』、『自然報告書』、研究紀要の『武蔵府中を考える』の計6種類の市史刊行物を発行した。さらに市史編さんの成果を活用して、本市の観光事業との協働による講演会を実施した。</p> <p>また美術館では、企画展・公開制作・鑑賞教室等を実施するとともに、市民ギャラリーでは、市内で活動する個人・団体の展示を実施し、来館者数は、開館以来はじめて、30万人を上回るなど、十分成果を上げていると評価できる。</p> <p>ラグビーワールドカップ2019開催に合わせて実施した府中ラグビーウィークで、海外や市外などから本市を来訪する方々に府中囃子、武蔵国府太鼓の郷土芸能や日本文化の紹介及び体験など市内の文化・芸術団体の方々に協力をいただき実施した。また、市指定の無形民俗文化財である府中囃子の演奏技術の伝承に年間を通して支援するとともに、市民を対象とした武蔵国府太鼓講習会を継続して実施し、伝統芸能の普及に努めた。</p> <p>②本市は全国でも珍しい、サントリーサンゴリアス、東芝ブレイブルーパス（ラグビー）、府中アスレティックFC（フットサル）、FC東京（サッカー）、FC東京バレーボールといった、複数のトップチームが市内を活動拠点や練習拠点等としており、その特性を生かした、イベントや講座などを実施している。</p> <p>令和元年度は、これらトップチームが一堂に会し連携した、「ボールふれあいフェスタ」では1,700人の参加、市内6か所の地域体育館で体育の日を開催する「みんなのスポーツday」では、一部トップチームの協力及び大学のボランティアサークル等とも連携し開催することで、6館計で令和元年度1,640人が参加、総合体育館においては、府中アスレティックFCによる、2講座（フットサル、チアダンス）、サントリーサンゴリアスによる1講座（タグラグビー）を行うなど、市特有の事業として展開し、スポーツタウン府中の発展に寄与した。</p>

【5年間（平成27年度～令和元年度）の事業の総括】

担当課
評価

①郷土の森博物館は、昭和62年の開館以来、ふるさと府中の貴重な歴史資料の収集・保管・活用を図るとともに、本市の歴史・文化の拠点かつ多摩地区の総合博物館としての役割を果たしてきた。平成26年には本館常設展示室を、平成30年にはプラネタリウムをリニューアルし、ふるさと府中の魅力をより効果的に学習する機会を創出した。一方、園内に四季折々の花を育て鑑賞の場として提供するなど、あらゆる世代が愛着の持てるフィールドミュージアム作りにも取り組んできた。

開館30年以上を経過し、施設の老朽化が進んでいることから、博物館の教育施設としての機能を維持・提供しながら、計画的に老朽化対策を進めることが今後の課題である。

市史編さん事業は、平成26年度に始まり令和5年度の完了を予定している。その間に各時代の基礎資料を集成して資料編を編集し、さらに各時代の通史編や附属刊行物を発行する。現在、編さん計画は順調に進行している。

美術館では、企画展・常設展・所蔵品展を開催し、市民の美術文化に対する意識を高揚に努めてきた。「入館者数」を平成30年度までに220,000人とする第6次総合計画・後期基本の指標を平成28年度に達成し、その後も天井改修工事の影響で約半年間休館となった平成30年度を除き順調に推移している。

開館20周年を迎える2020年は、当初「東京2020オリンピック・パラリンピック」競技の一部が本市内で開催される計画があり、多くの外国人観光客の入場が見込めるため、令和元年度に、一部トイレの洋式化など、バリアフリーの向上に努め、利用者の利便性の向上を図った。

ラグビーワールドカップ等のイベントへの参加を通して郷土芸能である府中囃子及び武蔵国府太鼓の市内外への普及に努めるとともに、演奏技術の伝承を行うため、継続して後継者育成に取り組んだ。また、平成29年度に府中囃子の演奏を収録したCDの作成・販売を開始し、平成30年度には武蔵国府太鼓を収録したDVDの作成・販売を開始し、市内外へ広く普及に取り組んだ。

A

②計画開始2年目である平成28年度には、スポーツタウン府中を標榜する本市の市政に対し、各トップチームが地域貢献の立場から協力的に事業実施を行うことができたため、目標値としていた3事業（フットサル教室・チアダンス教室・バスケット教室）を、総合体育館において、アルバルク東京や府中アスレティックFCの協力のもと実施したほか、平成30・31年度には、サントリーサンゴリアスによるタグラグビー教室を実施しており、参加者からこれを機会に競技を始めたいとの多数の声が挙がり好評を得た。

その後も従前の事業を見直し・継続しつつ、「ボールふれあいフェスタ」や「みんなのスポーツday」においても継続的に協力を得られており、計画以上の5事業を達成していることから、スポーツタウン府中の実現に向け、成果を上げているものと捉えている。

【令和2年度における取組など】

①郷土の森博物館では、新型コロナウイルス感染防止対策を講じながら、令和2年6月2日に再開館した。当面はリスク評価を行いながら利用者の安全を最優先に考え、段階的に機能を再開していく。さらに、新型コロナ時代と共存する新しい展示や体験学習等のあり方についても検討を進める。

また、本年10月からは、本館特定天井改修工事のため常設展示室・企画展示室が休室となる予定であることから、本館内及び復元建築物を活用した展示を充実させるとともに、展示・プラネタリウム・園内の回遊を利用者に促し、敷地全体を生かした利用者に親しまれる博物館づくりに引き続き取り組む。

市史編さん事業では、令和2年度にも資料編、報告書、付属刊行物の発行を予定しており、編さん成果に基づく市民向けの講演会の開催も計画している。

美術館では、企画展、常設展・所蔵品展を開催し、市民の美術文化に対する意識を高揚に努めるとともに、令和3年は、「東京2020オリンピック・パラリンピック」競技の一部が本市内で開催される計画の影響で、多くの外国人観光客の入場が見込めるため、令和2年度に、すべてのトイレを洋式化し利用者の利便性の向上を図っていく。

市指定の無形民俗文化財である府中囃子及び武蔵国府太鼓の伝承普及や後継者の育成に継続して取り組む。

②令和2年度の取り組みについては、本事業の主な会場となっている総合体育館が令和元年台風19号の被害により長期休館を余儀なくされており、また新型コロナウイルス感染症の対策として、施設の休館やイベントの中止のため、事業数が大きく減少することが考えられる。総合体育館については、早期の復旧に取り組んでいくとともに、新型コロナウイルス感染症の状況を注視しながら、今後も、参加者満足度の向上のため事業内容を工夫するとともに、トップチームなどとの連携を深めながら、更なる充実を目指していく。

※評価 A：取組が順調に進展しており、進捗状況は良好である。

B：取組が進展しており、進捗状況は概ね良好である。

C：取組が遅れており、進捗状況は不十分である。

3 進捗状況評価（協議会）

【担当課評価などに対する意見】	
協議会 評 価	<p>①郷土の森博物館及び美術館の入場者数は目標値 533,000 人に対し 579,175 人と大きく上回った。郷土の森博物館では、台風 19 号や新型コロナウイルスの影響から臨時休館を余儀なくされたものの、前年度と比較して、年間入場者数及び一日当たりの平均入場者数は増加したことは評価できる。また、美術館でも、開館以来はじめて 30 万人を上回るなど大きく評価できる。それぞれ様々な企画・展示を行っており、入場者数が増加した要因を明確にすることで、今後の取り組みの発展に期待したい。</p> <p>また、市史編さん事業や府中囃子などの伝統芸能の普及支援の取り組みも評価できる。今後の継続・発展に期待したい。</p>
A	<p>②大学やトップチームと連携する事業数は、前年度に引き続き 5 事業と目標値を上回っていたことは評価できる。本市の特徴でもある複数のトップチームと連携した、「ボールふれあいフェスタ」や「みんなのスポーツ day」といった事業を今後も継続していくことに期待したい。</p>

- ※評価 A：目標の達成に向けて、着実に進んでいる。
 B：目標の達成に向けて、概ね進んでいる。
 C：目標の達成に向けて、改善や工夫が必要である。